

こだま

第174号
2011.4

ISSN 0915-8782

CONTENTS

必見!! 図書館見所ガイド 20112
「わたしの薦める一冊～新入学の諸君へ～」6
ダブリン図書館紀行9
KULiC-α活動報告10
トピックス12

金沢大学附属図書館報 “こだま”

<http://www.lib.kanazawa-u.ac.jp>



必見!! 図書館見所ガイド 2011

図書館へ行こう!

図書館紹介ビデオをリニューアル



本学の演劇サークルの皆さんの協力を得て、大変愉快的な内容に仕上がりました。p.1～5の写真は、すべて新しいビデオの映像によるものです。図書館Webサイトでも公開していますので、ぜひご覧ください。

必見!! 図書館見所ガイド 2011

図書館へ行こう!

新入生のみなさん、金沢大学の図書館を紹介します。自分にあった勉強法や過ごし方を見つけ、快適な大学生活を過ごしてみませんか?

情報

報へのアクセスポイント

インフォスクエア

インフォスクエアの中心となるのは、18台のパソコンが置いてあるコーナーです。ここではパソコンを利用して、様々な情報を収集することができます。

インターネットを利用した情報検索はもちろんのこと、一部のパソコンではワープロ、表計算ソフトを使ってのレポート作成などが可能です。印刷もできますので(1枚10円)、どうぞご利用ください。

パソコン利用コーナーの隣には新着図書/雑誌があります。

最新情報はこのコーナーでチェック!

☆持込みのノートパソコンも館内でご利用いただけます。

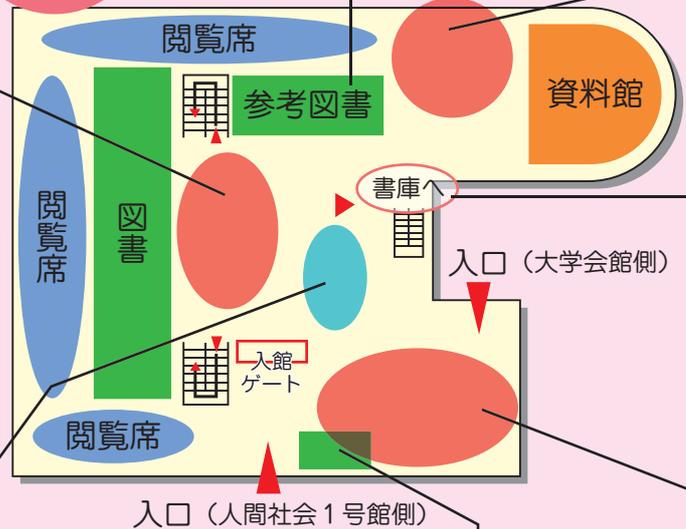


参考

考図書とは

読み物としての図書ではなく、何かを調べるために使う資料のことです。例えば、百科事典、辞典類、便覧、年鑑、地図、資料集などがあります。

2F



困

ったときには

サービスカウンター

入館ゲートを入ってすぐ右手にあるのが、サービスカウンターです。図書・雑誌の貸出返却手続きはもちろんのこと、

- ・資料の探し方がわからない
- ・データベースの使い方がわからない
- ・機器の使い方がわからない などなど...

わからないこと、困ったことがあったら、お気軽にどうぞ。



毎

日の情報は...

ニュースラウンジ

ブックラウンジの一角では、当月分の新聞が読めます。置いてある新聞は、朝日、産経、日経、北國、北陸中日、毎日、読売などです。

また、2台あるテレビでは衛星放送、CNNなどを視聴することができます。

映画を楽しむ

マルチメディア・ラーニングスペース

CD, DVDなどを視聴することができるコーナーです。
観たいDVD,聞きたいCDをサービスカウンターに持っていき、手続きを行ってください。
講義の空き時間に映画を観てリフレッシュするのもいいですね。



書庫

書庫への入口はサービスカウンターの横にあります。サービスカウンターで学生証（または図書館利用券）と引き換えに入庫票を受け取って、荷物を「書庫利用者用ロッカー」に入れてください。



書庫には、ちょっと古い学術雑誌、専門書などが置いてあります。なかには明治時代以前の図書も!!

独特の雰囲気で、じっくり探検してみるのも面白いですよ。ぶらぶら眺めていると、意外な本に出会える場所です。

ほっと一息

ブックラウンジ&ほん和かふえ。

【イベントの開催】

講演会, 発表会, 映画上映会等のイベントを行うことができます。

【ほん和か文庫を読む】

ブックラウンジ内には気軽に読める図書・雑誌をあつめた「ほん和か文庫」があります。これは図書館ボランティアとぼらの学生が選定したものです。

【ギャラリーαで作品の展示】

ブックラウンジの壁面を利用したギャラリーです。サークルの発表, 研究の展示など, 色々な利用が可能です。



●●「ほん和かふえ。」●●

ブックラウンジにはカフェが併設されています。その名も「ほん和かふえ。」です。勉強に疲れたとき, コーヒーを飲んで一休みしてはいかがでしょうか?

【メニュー例】

コーヒー, ジュース, ケーキ, ほん和かサンド など

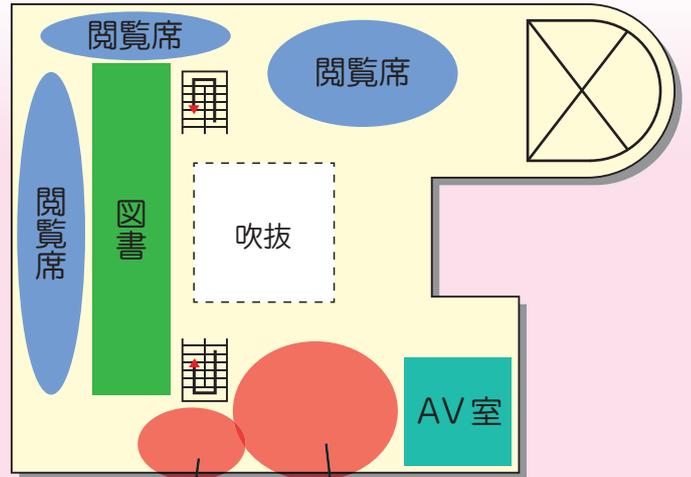
【営業時間】

平日 9:30~19:00
土・日・祝日, 学期休み閉店

コラボスタジオ

一人で黙々と勉強するだけが大学の学習ではありません。仲間と一緒に議論しながら学習することのできるスペース、それがコラボスタジオです。コラボスタジオには、**オープスタジオ**と**グループスタジオ**の2つのコーナーがあります。

「静かに勉強」という図書館のイメージが変わる明るい空間です。この場所を使って、みんなで刺激あって勉強しませんか。



3F

集中して議論するなら

グループスタジオ

グループスタジオはA（定員8人）とB（定員6人）の2部屋があります。2部屋とも利用は予約制です。

個室のため、周りの音にわずらわされずに話し合いを行うことができます。この部屋でゼミを行うこともできます。



みんなで自由に学習するなら

オープスタジオ

オープスタジオは、予約なしで自由に使える空間です。椅子・机の配置換えも自由にできます。

ホワイトボードに書き込みをするもよし、プロジェクターで発表の練習をするもよし、資料を見ながらみんなで話しあうもよし。

使い方はみなさんで探し出してください。



分館へも行こう！

附属図書館には中央図書館以外に分館・図書室があります。専門的な学習・研究をするなら、こちらへ！

自然科学系図書館



自然科学系図書館は、角間南地区にあります。理学・工学・薬学の専門書を中心に所蔵し、蔵書数は約28万冊です。2011年2月には「環境学コレクション」のコーナーを新設しました。

自然科学系図書館には、「自動化書庫」という資料保存スペースがあります。書庫内の資料は、館内の専用端末から取り出すことができます。

そのほか、自然科学系図書館には、グループや個人で学習するための部屋もあります。図書館Webサイトから利用予約ができますので、どうぞご利用ください。（自然科学系図書館）

医学系分館

医学系分館は、宝町の金沢大学附属病院に隣接する、医学系の利用者サービスを中心とする図書館です。

資料のほとんどが専門書で、蔵書数は23万冊強と、決して多くはありませんが、雑誌は6000種以上所蔵しています。利用者が自由に使えるインターネット及びレポート作成用端末12台と、情報検索端末4台があり、学習、研究のサポートをしています。

昭和45年に開館した、築40年を越える古い図書館ですが、近々増改築する予定で、それに伴う仮移転の計画も進行中です。一つの図書館の過渡期を目にするまたとない機会でもありますので、是非一度お越しください。（医学系分館）



保健学類図書室



保健学類に入学された皆さんこんにちは。これから4年間、自分で選んだことを好きなだけ勉強・研究できる楽しい時間が待っていますね。そのために必要となる図書や雑誌が集まっているのが保健学類図書室（鶴間キャンパス3号館1階にあります）です。高校までの図書室と違って、専門的な本や雑誌がたくさんあります。国家試験問題集コーナーや患者さんの手記を集めた闘病記コーナーなどもあります。図書室を使わずに卒業するのはもったいないですよ。ぜひ図書室を活用して学生生活を充実させてください。（保健学類図書室）

学内共同教育研究施設センター長による 「わたしの薦める一冊～新入学の諸君へ～」

金沢大学には、学生の皆さんが所属する学域・学類や大学院の他に、教育研究を行う附属の施設がたくさんあります。今回は、学内共同教育研究施設のセンター長を務めていらっしゃる9人の先生方に“わたしの薦める一冊～新入学の諸君へ～”として図書1冊を紹介していただきました。学生生活スタートの1冊としてぜひ読んでみてください。

☆入学式（4月7日）から約3週間、中央図書館のカウンター前ホールにて、図書展示を行います。ぜひご覧ください。☆

若者と地域をつくる —地域づくりインターンに 学ぶ学生と農山村の協働—

宮口侗迪ほか編著 原書房
2010年8月



神谷浩夫教授
(地域連携推進センター長)

これからの地域づくりには協働が欠かせないと言われている。しかし、金大生にとってそれは遠いものと感じるのではないだろうか？この本は、国土交通省（旧国土庁）のインターン事業と首都圏の大学生が中心となって運営してきた「地域づくりインターンの会」の記録をまとめたものである。まちづくりには、「ヨソモノ」「バカモノ」「ワカモノ」が不可欠な人材であるが、「ワカモノ」の代表格である大学生が農山村で活動することで、地域はどのように変わったのを記録したのが本書である。総務省の「地域おこし協力隊」、農水省の「田舎で働き隊」、グランドワーク協会のインターンシップなど、近年学生向けのインターンシップが増えてきている。学生は地域を変える大きな力となることを本書は示している。

科学者になる方法 —第一線の研究者が語る—

科学技術振興機構
プレスルーム編 東京書籍
2005年1月



浅野雅秀教授
(学際科学実験センター長)

科学者、研究者を育てることは大学に課せられた大きな使命の一つです。大学院教育を主に担当している学際科学実験センター所属の我々は、優秀な科学者を育てることを教育の重点に置いています。本書はこれから科学者を目指そうとする新入生などを対象としており、第一線で現在活躍している30数名の科学者が、なぜ自分は科学者の道を選んだのかを自分の言葉で語っています。新進気鋭の若手科学者からノーベル賞候補者として注目されている山中さんや化学賞を受賞した野依さんまで、皆さんが好き勝手なことを語っていますが、その中にあなたがなるほどと思える意見がきっと見つかると思います。また、それぞれの科学者がどのような発見をし、どのようにしてその発見にたどり着いたかについて熱弁を振っています。科学者といっても十人十色であり、本書の中にあなたが尊敬できる人を見つけて、科学者になる道について考えてくれることを期待しています。

益川博士のつぶやきカフェ

益川敏英著 三省堂

2010年9月



青木健一教授

(総合メディア基盤センター長)

「ますかわさん」の本である。2008年度ノーベル物理学賞受賞の益川敏英博士の51のつぶやきを収録してある。最初のテレビでの「たいしてうれしくない」以来、朝のワイドショーからニュース特番まで出づっぱりで、当時の子供の3大人気はドラエモン、ピカチュウ、ますかわさんだったらしい。この書評誌を読み通すより早く読み終わられるので、もし眼の前にあるなら、ぜひ、手にとってさっさと立ち読みしましょう。最初は「野蛮人でいたい」。文化勲章の授賞式で指揮者の小沢征爾に向かって「僕は野蛮人なので」と言うと、小沢征爾から「今から文化人になればいい」と返されたと益川さんから聞いた。このつぶやきを聞くと、益川さんの定義なら小沢征爾も立派な野蛮人だとわかる。学生の皆さんにぜひかみしめて欲しいところは、最後の方にある「学ぶということは自由を獲得するプロセスである」。全てのつぶやきが若者、特に科学を志す人たちに深い意味がある。独創的過ぎて、すぐには何のことかわからないかも知れないが、頭の奥に入れておけば、ふとわかる時が来る。「たいしてうれしくない」の真意がやっとなつとわかるつぶやきもあるのでお楽しみ。

日本の歴史をよみなおす(全)

網野善彦著 ちくま学芸文庫

2005年7月



吉國信雄教授

(イノベーション創成センター長)

イノベーション創成センターの役割は、「イノベーションの創出」すなわち「新たな価値の創出」「産業構造・社会構造の変革」に関する業務です。歴史とは、そうしたイノベーションによる変遷の積み重ねであるともいえます。ところで、現代に身を置く私たちが、本当に、当時何が起こったのかを正確に把握できているのでしょうか？現代の常識で過去、歴史を振り返ってはいないでしょうか。本書は、「日本の歴史をよみなおす」と「続・日本の歴史をよみなおす」の二つの部分から構成されており、特に私の強い関心と呼んだのは後者です。「続・日本の歴史をよみなおす」の「第1章 日本の社会は農業社会か」では、「百姓は農民ではなく沢山の非農業民」や“江戸時代までの奥能登の実態は、港町、都市が多数形成され、日本海交易の先端を行く廻船商人がたくさん活動しており、……”といった、これまでの固定観念を払拭する内容がいたるところに出てきます。今ならシュレッダーにかけてしまうであろう「襖の下張り文書」には何が書かれているといった、ミステリーもどきのお話も。歴史学者ではないので、真偽の程は私にはわかりませんが、「歴史の常識を疑うところからイノベーションは生まれる」、そんな気持ちにさせてくれた本でした。

時間と自己

木村敏著 中公新書

1982年11月



志村恵教授

(留学生センター長)

大学に入学し、新しい生活が始まりました。でも、夢中で走っているとき、ふと「自分って誰なんだろう？」「自分はどこにいるんだろう？」との疑問が湧いてきて、「わたし」という存在が確信できないことがあります。そうしたときは、なんだか時間感覚もいつもと違っているような気がします。時間はわたしたちのころもちによって、伸びたり縮んだりするように感じられるからです。

『時間と自己』は、現象学的精神医学の第一人者木村敏の名前を一般読者にも広げた記念すべき著作です。日本人の認識の特徴を「もの」と「こと」を軸に展開したり、わたしたちと時間の関係を「あいだ」という概念を使って考えたり、統合失調や鬱の人たちの時間感覚から、人間存在のあり方を照射したり、自分を考える大きなきっかけになります。

難しい表現や哲学的な議論もありますが、読み終えた後は、きっと爽快な気分になっているでしょう。

ローマ人の物語

塩野七生著 新潮文庫

2010年秋現在

『キリストの勝利』まで刊行



澤田茂保教授

(外国語教育研究センター長)

秋になると『ローマ人の物語』を読んでいる。本書の正版が毎秋一卷ずつ順次文庫出版されているからだ。古代ローマ帝国の盛衰を描いた書は欧米には多いけれど、『ローマ人の物語』は日本人の、それも女性目線で書かれている点で出色の作品だと思う。キリスト教文化に毒されていない視点や男は決して気がつかない女の視点が随所に発見できる。

世界史を学ぶ学生が少なくなっているので、本書を面白く感じる学生も少ないかも知れない。しかし、著者は歴史家ではなく小説家である。古代を語りながらも現代社会の課題を照らし出していると思う。

ローマが衰亡期に入ったとき歴代皇帝は矢継ぎ早に改革を打ち出して、再生を図ろうとする。しかし、改革によってローマは復活するどころか、衰退を早めるだけであった。すべての改革は善き意図から始まる、というカエサルの言葉がある。現今の大学改革の有り様を思うと、これ自身が制度としての衰亡の現れなのかも知れない。

独創のすすめ

近角聡信著 東京堂出版

1994年9月



西山宣昭教授

(大学教育開発・支援センター長)

新入生の皆さんは、大変な努力をされて金沢大学に入学されたことと思います。大学入試では膨大な知識を記憶することが求められ、その過程で皆さんは忍耐力を身につけたに違いありません。しかし、問題はこれからです。社会では、問題や課題は与えられるものではなく、自ら見出したり設定したりすることができるかどうか問われるのです。そのための「独創のすすめ」が本書です。「独創」とは、単なる思いつきではなく、学習によって獲得した複数の知識を人まねではない独自の論理によって関係付けること、つまり「自分の考えを持つこと」であると述べています。そしてその論理が妥当かどうかを辛抱強く検証することが重要だと指摘しています。知識と論理的思考力と忍耐力が「独創」の前提です。既成の概念や枠組みを批判的に捉え、知識を活用して「独創」を楽しみ、新しい問題や課題を見出す能力を養うための大学生活を始める上で是非お勧めしたい1冊です。

あなたの暮らしが 世界を変える

阿部治ほか監修 山と溪谷社

2007年9月



中村裕之教授

(環境保全センター長)

金沢大学に入学された諸君は、日本は物質的に恵まれた世界有数の文明国で、言論統制のない自由な民主的な国家であり、医学的にも世界第一の長寿な国であるという誇りを持っていることでしょう。しかし逆にいえば日本ほど消費文化で差別の多い社会は先進国ではないことを知っていますか。必ずしも長寿が健康で幸せであるという保障はありません。貴方の大学生活は、金沢の地で「持続的発展のための教育」(ESD: Education for Sustainable Development)を受けることによって大きく変わるでしょう。まさにこの本は、「持続可能な未来がわかるための絵本」です。

「宇宙船地球号の今」—今、地球で起こっている30の真実を問題提起されます。どれも今の地球人は未来の地球人に借金をして暮らしている事実から、この本は始まります。「地球の陸地の4分の1はもう砂漠になっている」、「飢えと栄養不足は世界1位の死亡原因です」、「今、絶滅の恐れのある種は1万2259種」など、サステナビリティ(持続可能性)とは、このような現実をまず認識することですが、著者は、サステナビリティの理解を本当に自分のものにするためには、ひとつひとつがばらばらに起こっているわけではなく、これからも続く未来のために、ひとつひとつが繋がっていることを身近なところから少しでも意識を改善していくことが重要であるといえます。1杯のコーヒーも1枚のTシャツも世界と未来につながっていることがわかるでしょう。「今なぜ先住民族なのか」、「文化や宗教の違いをお互いに認める」、「買い物で社会を変えよう」など、貴方の日本という社会に対する価値観が変わることでしょう。金沢大学では環境リテラシーを身につけ、サステナビリティな生活が実践できる社会人となるための環境教育の場を諸君に提供します。

花匂う

山本周五郎著 新潮文庫

2009年5月



東田陽博教授

(子どものこころの発達研究センター長)

大学生の頃は自分に自信が持てず、自己卑下や自己否定の連続であると思う。苦しい精神の葛藤と未来が見えてこない事で焦燥の中に居る事と推測する。山本周五郎の小説には、驚くばかりの、現実肯定の世界が描かれている。弱い者やいと小さき者への愛があふれている。周五郎の描く男女の世界には、本当にさまざまな男女の関係が描かれているが、決して女性が虐げられているばかりでなく、誠実に愛される対象としての女性がいて、男性からの真実の愛がさりげなく書かれている。日々の肯定からくる人間を讃える安定な人間像が描かれている。焦燥の中にいる若い人に、早くこの人生肯定を知ってもらいたいのが故に推薦する。その他、人情裏長屋や菊月夜といった表題の冊子も推薦したい。

ダブリン図書館紀行

藤原恵理子 (情報企画課コンテンツ第一係)

金沢大学では、毎年、事務職員等を対象とした海外語学研修を実施しています。私は、今後、図書館を利用する留学生をサポートする機会が増えるだろうと考え、平成22年度に実施されたアイルランドでの約1ヶ月間の語学研修を受講しました。

アイルランド(共和国)は、イギリスの西側に位置するアイルランド島の南西部にあります。緯度のわりに気候は温暖ですが、雨が多いです。私は、首都であるダブリン市に滞在しましたが、伝統的な建物が多い一方で、近代的なデパート等もあり、金沢と共通点が多いように感じました。文学、音楽、歴史、お酒(ギネスビールやウィスキーが有名!)が好きの方には、自信を持ってアイルランドをお勧めします!

さて、今回は図書館報ということで、ダブリン市内の図書館をいくつかご紹介します。

まず、最初にご紹介するのは、金沢大学の協定校であるダブリンシティ大学の図書館です。私は、ダブリンシティ大学内にある語学学校に通っていたので、滞在中によく利用しました。規模としては決して大きくはありませんが、グループワーク用の部屋が17室用意されていること、250台以上のパソコンが配置されていること等が印象的でした。図書館に置いてあるDVDの中には、「となりのトトロ」や「魔女の宅急便」もありました。

次にご紹介するのは、アイルランド最古の大学であるトリニティカレッジの図書館です。有名な装飾写本である「ケルズの書」と、古い蔵書を納めている「オールドライブラリー」は、ダブリンの観光名所でもあります。私が見学に行ったときには、古い建物が並ぶ構内に、うっすらと雪が積もり、マントのようなロングコートをはおった男子学生が、コーヒーを片手に構内のガイドツアーをしており、まるで映画のワンシーンのようでした。

最後にご紹介するのは、アイルランドの国立図書館であるナショナルライブラリーです。こちらの見所は、アイルランドの劇作家・詩人でもあるW.B.イェーツの展示と、閲覧室です。W.B.イェーツの展示は、テーマに沿って小部屋が用意されており、展示方法がとても凝っていました。閲覧室は、円形の高い天井になっており、とても雰囲気がありました。

図書館は、その街や大学の、歴史や文化、教育に対する考え方を反映するものだということを改めて実感しました。ダブリンの図書館の、大切に保管されてきた古い蔵書や、そこに長時間いたくなるような建物は、ダブリンの歴史とそれを大事に思う市民の心を、私に教えてくれたように思います。金沢大学の図書館も、利用する人に、金沢や金沢大学の歴史を伝えられる図書館になっているかな?と考えながら、この経験を日々の仕事に生かしていきたいです。



語学学校のクラスメイトと



ダブリン市街地



ダブリンシティ大学図書館



トリニティカレッジ図書館



ナショナルライブラリー

KULiC-α 活動報告

2011年1月～3月

レポート作成基礎講座，金沢美大との共催イベント，ミニコンサートなど多彩なイベントを実施

今期も，図書館職員によるレポート作成基礎講座をはじめ，KULiC-αを使った様々な活動を行いました。コーナー別に主なものをピックアップしてご紹介しましょう。

オープンスタジオでの活動

これさえ知ればレポート作成も怖くない：レポート作成基礎講座（1月17～21日）

学期末のレポート作成シーズンに合わせ，附属図書館職員が講師となって，5日連続でレポート作成の基礎知識についての講習会を行いました。毎回，次のような内容で説明と実習を行い，予想を超える38名の方の参加がありました。

1. レポートとは？（レポートの構成と作成の流れ，構想の立て方）
2. 実習（実際に課されているレポートのテーマを絞り込む作業，具体的なキーワードによる検索）
3. その他の注意事項（文体，引用の方法，参考文献の書き方）



アンケートでは，次のとおり，いろいろなご意見を頂きました。また，右の表のとおり，レポート作成法以外にも，いろいろな講座に対する要望が大きいことが分かりました。今後，これらの結果を踏まえ，説明内容や配布資料を改善した上で，これまで以上に活発に講習会を継続開催していく予定にしています。

【寄せられた感想・意見の一部】

分かりやすくてためになりました／1年生時にあるとすごくうれしい／内容が当たり障りのない内容にとどまっていた。「目からウロコ」のような情報を期待／4年生には簡単すぎました／次回は課題を持ってきます。

希望する講習会(回答総数38)

論文・レポートの作成法	17
プレゼンの作成・発表	16
研究テーマの選び方	15
Word, Excelの利用法	13
就職関係セミナー	13
OPACの利用法	9
専門分野の文献探索法	9
日常的な学習の方法	8
データベースの利用法	7
電子ジャーナルの利用法	7
館内ツアー	4
PCの基本操作	4
グループ学習の方法	3
全般の説明	1

学生・学習支援研究会（主催：大学教育開発・支援センター）

前号でご紹介した「レポート・ライティング・ワークショップ」（12月8日）に続き，大学教育開発・支援センターとの共催で，次のような企画をオープンスタジオで行いました。

- ・1月24日 第3回学生・学習支援研究会 「プレゼンテーション・セミナー」
- ・2月10日 第6回学生・学習支援研究会 「エントリーシート・面接の心得～就職活動にはポイントがあります。」

講師は，大学教育開発・支援センターの山田政寛准教授が担当しました。どちらも先生自身の体験談に基づく具体的な説明内容で，大変好評でした。このシリーズも今後継続的に開催していく予定です。

その他，次の研究会では，図書館職員が報告を行いました。

- ・2月7日 第5回学生・学習支援研究会 「学生の立場からの新たな図書館づくりー東京女子大学『マイライフ・マイライブラリー』公開実績報告会に参加して」 報告：橋 洋平(情報部情報サービス課)

ブックラウンジでの活動

金沢美大との共催による展示と講演会

- ・1月21日～2月4日 展覧会「批評と言説：テキストによる展覧会」
- ・1月26日 金沢大学創基150年記念「講演会・シンポジウム」シリーズ第22回「アートで語る」

ブックラウンジでは、金沢美大との共催で、展覧会と講演会を並行して行いました。1月26日には、ギャラリーαで作品が展示されている「アートな空間」の中で、金沢美大の小松崎拓男先生、横川善正先生、本学の柴田附属図書館長によるトークセッションが行われました。

本学と金沢美大は、1月13日に「大学間交流に関する包括協定」を締結しました。今後も金沢美大関係者による作品展や交流を深めるためのイベントを企画していく予定です。



ギャラリーαにスポットライトを設置

Music Cafe@Libミニ・コンサート（1月20日）

試行的な試みとして、人間社会学域学校教育学類音楽科（ピアノ、マリimba、オーボエ）の6名の皆さんによるミニ・コンサートを行いました。図書館内で演奏を行うという試みは大変新鮮で、アンケート結果は大好評でした。今後も随時開催していく予定です。



ブックラウンジは、誰でもふらっと立ち寄ることのできるスペースです。コーヒーを飲みながらの研究発表会など、他の会場にはない使い方も可能です。イベントの開催を希望される方は、中央図書館係（TEL：076-264-5211）までご連絡ください。

図書館学生ボランティア とぼら 新規メンバー募集中！

「とぼら」は金沢大学図書館学生ボランティアの愛称です。中央図書館のオープンスタジオにあるTobora Desk+での利用者サポート、「ほん和か文庫」の運営、図書館をもっと楽しめる場所にするための展示や上映会…いろいろなイベントの企画・運営を行っています。

メンバーからのコメント

■映画好きの私は、とぼらに入れば図書館で映画上映会ができる！という思いつきでとぼらのメンバーとなり、1年間映画上映会やCD展示、選書などの活動をしました。映画だけでなく本も好きなのでとぼらの雰囲気は好きです。本好きが集まっている空間は安心します。図書館で過ごす時間も増え、日々発見で図書館って面白いなあと思います。今年も楽しく活動していきたいです。（法学類3年・高嶋志帆）

■1年を通してさまざまな活動を行った中でも、ほん和か文庫の立ち上げが特に印象に残っています。どんな本を置くか、どんな配置にするか等を話し合い、みんなで試行錯誤して、個性豊かな本たちの集まった空間をつくり上げることができました。素敵な本との出会いの場を築く仕事に関われたこと、とても誇りに思います。（人文学類2年・坂野由美）

●関心のある方は中央図書館カウンターまでご連絡ください。

情報サービス課（橋・香川）076-264-5210又は5211 e-mail: etsuran@adm.kanazawa-u.ac.jp





図書館



保健学類図書室の平日開室時間の変更

保健学類図書室の平日の開室時間が15分早くなりました。8時45分に開室します。ご活用ください。

環境学コレクション

自然科学系図書館2階に環境学コレクションのスペースができました。金沢大学では、今後環境学に関する図書を重点的に収集し、このスペースに集めていきます。学習や研究活動にお役立てください。



SciFinder Web版

4月より、SciFinderはクライアント版からWeb版に移行します。2月9日、自然科学系図書館にて社団法人化学情報協会担当者によるSciFinder Web版講習会が開催されました。参加人数は50人。化学・薬学分野の研究室に所属している方が多く参加されました。☆SciFinderは、化学を中心とする医薬、生化学、物理、工学等の化学情報についてのデータベースです。同時アクセス数1となっておりますので、ご利用の際は、必ず図書館Webサイトから予約を行ってください。



SciFinder Web版講習会

北陸銀行文庫 新規寄贈図書50冊

北陸銀行文庫は、平成20年度、本学と北陸銀行との間に締結した「包括的連携協力協定に関する覚書」事業の一環として、中央図書館閲覧ホールに設けられたものです。1月11日から2月4日にかけて、「あなたの選ぶ北陸銀行文庫」と題して学生の皆さんから希望する図書を募りました。多数の方からのご応募をもとに、3月1日、計50冊を新たに北陸銀行から寄贈していただきました。マネジメントやビジネススキルに関する図書が集まっており、中央図書館の中でも大変人気のある文庫となっています。どうぞご利用ください。



贈呈式

NAOKO☆宇宙アサガオ種(第2世代)

昨年6月、宇宙飛行士の山崎直子氏と宇宙を旅した宇宙アサガオの種3粒(第1世代)を、明後日朝顔プロジェクト(日比野克彦氏主催)から譲り受けました。7月2日に中央図書館で種まきを行った3粒は、猛暑に



も負けずすくすくと成長し、種101粒(第2世代)を収穫する事ができました。

3月、この種を近隣の小学校などの他、抽選で選ばれた20名の方にもプレゼントしました。宇宙の記憶を持った種が、これからどんなつながりをつくってしてくれるのか、楽しみです。

附属図書館ブックリユース市

不要になった図書(私物)を学内でリユースしようという趣旨のもと、中央図書館では初の試みとなる“ブックリユース市”を開催しました。事前に開催をお知らせしたところ、1376冊の図書を集めることができました。3月7日、ブックラウンジ内に図書を並べて“市”をスタートし、3月11日までの5日間で約940冊のリユースがありました。ご協力くださいました皆様、ありがとうございました。



図書館Webサイト(英文版)を公開

以下のURLで運用を開始しました。ご利用ください。
http://www.lib.kanazawa-u.ac.jp/index_e.html

展示

- ・“武士の家計簿”の磯田道史先生サイン本展示(1月11日～3月7日)
- ・人文社会科学系学術図書出版助成による「金沢大学人間社会研究叢書」第1巻を展示(1月14日～1月31日)
- ・倉田徹先生サントリー賞受賞に関する展示(12月17日～3月31日)

活動記録(2011.1-2011.3)

☆会議など

- 図書館委員会：第5回3月8日
- 学生用図書選定部会：
 - (中央図書館) 第4回2月24日
 - (自然科学系図書館) 第4回2月23日
- ラーニング・コモンズ運営部会：第3回3月1日
- 学術情報基盤整備WG：第3回3月7日
 - 【第1回7月28日、第2回11月7日】
- 環境学コレクションWG：
 - 【第1回7月8日、第2回11月16日】

金沢大学附属図書館報「こだま」第174号

平成23年4月1日発行 発行：金沢大学附属図書館
編集：広報委員会 印刷：株式会社 橋本確文堂
〒920-1192 金沢市角間町 TEL：076-264-5200
E-mail：etsuran@adm.kanazawa-u.ac.jp